

「第8回若者就労支援研究会」

日時：平成19年2月27日（火） 午後7時から午後9時

場所：みえ市民活動ボランティアセンター ミーティングルーム A、B

■ 出席者（順不同）

三重大学 人文学部 石阪

三重大学 大学院生 福島

若者就業サポートステーション・みえ 中川 生木

三重県自閉症・発達障害センター 正木

市民ネットワークすずかのぶどう 佐藤

三重県社会福祉協議会 北出

三重県こころの健康センター 岩樋

わかば共同作業所 三輪

いせ市民活動センター 浦田

特定非営利活動法人 地域開発研究機構 佐々木

こころの医療センター 引きこもり当事者会 ボランティア 樋口

おしごと広場みえ 奥山 平岩

勤労・雇用支援室 濱條 福島 宇佐美

NPO 室 堀木

寺子屋プロジェクト 井上 吉田

個人参加 1名

（司会者）

- ・ 三重県若者就労支援研究会、今年度最後の研究会になります。今日は今までの研究会をふり返って、また次年度どのように研究会を運営していくかということ、みなさんと意見交換できたらと思います。
- ・ 本日の資料の確認
 - 事項書 平成18年度のおゆみ 第2回親向けセミナー2/3 講演録と参加者アンケートのまとめ 第7回議事録 研究会の規約案 アンケート用紙
 - 第7回グループワークのまとめシート（1班～3班）
 - 課題シートの中身を記入したもの

1. 第8回研究会参加者近況報告

2. 平成19年2月3日に行なった、今年度2回目の親向けセミナーのことを浦田さんの

ほうからご報告いただけますか。

若者の就労を考える親向けセミナーについて 浦田

- ・ 2月3日、伊勢市労働福祉会館のほうで、親向けセミナーを行ないました。当日は13名の方がみえまして、四日市のときよりも若干増えたかたちですが、全体の雰囲気としては、参加人数が多くて、自分の子どものことをしゃべりにくかったかなという印象が少しあります。ただ、ワークショップ自体は第1回のときよりも盛り上がって、いい感じでしたが、少しもの足りない部分があったのかなという感じはします。
- ・ なかには、どんどんと質問をしたいという方が何人かみえて、なんとなく気持ちが少し開けたのかなというかたもいたような感じがします。
- ・ アンケートの集計が出ていますので、また見てもらえばいいのかなと思います。やはり、ワークショップ自体は楽しくやれたけれども、フリートークの部分で少し言いにくかったという感想がアンケートにも出ているような感じはします。そのあたりが、課題です。
- ・ 個人別の相談、面談が必要ではないかということで、今後はサロンというかたちでさせていただきますのがいいのではないかと思います。

(司会者)

- ・ ワークショップの目かくしゲームで、やはり階段を使ったというのが、結構、効果的でしたよね。
- ・ はい、目かくしゲーム自体は、第1回のときは階段を使いにくい会場でしたから、部屋のなかのみだったのですが、伊勢のほうでは階段が使えましたから、目かくしをしながら、階段を上り下りするということことができましたが、そのときに少し出た話で言いますと、目をかくしながらもう一方の人は目をかくさないで、目をかくした人に寄り添いながら、目をかくした人が行きたい方向に支えながら一緒について行くというかたちでした。そのなかで、自分の子どもと接するときの接しかたというのを同じような感じで捉えたという方々もワークショップが済んだあとに、お話しをする方もみえて、その辺りは良かったのではないかなと思います。

(司会者)

- ・ はい、ありがとうございます。今回は伊勢市役所のご後援というかたちでご協力いただいて、職員の方も3名を参加されました。これから、地域へこの活動を広げて行くのに大事なことかなと思いました。
- ・ 次にガイドマップのことについてですが、今月いっぱい原稿のほうを仕上げるということでは進めていきましたが、若干遅れていまして、3月の上旬には上がる予定でいます。先回お配りした、原稿の修正・構成のほうを、まだ、こちらに送られていない方がみえましたら、早急にお知らせくださるようお願いいたします。

津富宏氏の学習会について 福島

- ・ 今年度研究会はこれで最後になりますが、3月に追加で勉強会をさせていただきます。静岡県立大学の助教授、津富宏さんをお招きしますが、津富さんは静岡のほうで、NPO法人青少年就労支援ネットワーク静岡の理事長をされていて、長い間活動されていますが、静岡方式の若者の就労支援の取り組みについてお話いただきます。私たちの取り組みにも大変参考になる部分がありますので、ネットワークという意味と先生ご自身が元少年院の教官をしてみえて、そのなかで育てなおして、就労へ結び付けていくというノウハウを社会のなかで若者の就労支援に活かしていきたいというような取り組みをされているので、具体的な個人に対する支援の方法・ノウハウもお聴きできるし、ネットワークという意味でも話を聴けるので、今回は来ていただくことになりました。
- ・ 3月16日の午後7時からこの場所ですので、みなさん是非ご参加ください。

(司会者)

- ・ はい、ありがとうございます。津富先生のいろいろな取り組みをまとめた資料を見せていただいたのですが、かなり具体的に細かく取り組んでおられるなという印象で、16日のお話を私も楽しみにしています。ご都合つかれる方は是非ご参加いただけたなと思います。
- ・ 次は就労体験事業のことを佐々木さんのほうからお願いします。

若年無業者就労体験プログラムについて 佐々木

- ・ 今までに登録していただいた人数は32名。就労体験プログラムに参加された方は21名になっています。2月の上旬に受付は終了しまして、プログラムの期間中に3つの事業所をまわることは無理ということで、やめようかということだったのですが、先週から3名ほど、就労体験プログラムについて問い合わせがありましたので、せっかく今やろうと決心された方々に、現在プログラムは行っていませんというのは、どうかと思いましたので、1つの事業所だけでも行っていただこうということで、明日説明会に3名来ていただくことになっています。
- ・ 参加していただいている方々のお住まいのエリアは、桑名から、伊勢志摩まで満遍なく広がっています。津が一番多く7名で、他の市町の場合は大体2名か1名です。
- ・ 男女別にみますと、男性が11名。女性が10名参加となっております。年齢別に分けますと、多い年齢層が28歳から29歳、34歳という傾向が出ています。こういったところは、後ほど報告書というかたちで提出させていただきますので、よろしく願いします。

(司会者) はい、ありがとうございます。他に還元することで、みなさんとの情報共有しておいたほうがいいのではと思うことですが、みなさん方に告知しておきたいことについていかがでしょうか。

「全国ニート・ひきこもり支援者交流集会」について 福島

- ・ 情報共有ですが、2月10、11、12日に「全国ニート・ひきこもり支援者交流集会」が東京でありまして、こころの健康センターの岩樋さんから情報をいただいて、岩樋さん、中川さん、私の3人が参加しました。
- ・ 全国で取り組んでいるNPOのみなさんが来ていて、いろいろな話を聴くことができました。
- ・ 私が参加した分科会では、特に雇用の問題についての分科会でしたので、そのなかで東京の「中小企業家同友会」に参加している社長さんがひとりみえていまして、中小企業家同友会のなかで、就労支援のグループをつくりたいと考えています。ということで、それは知り合いに頼まれて受け入れた経験から、就労支援に取り組んでいきたいというふうに考えられたということです。三重県でも来年度のみなさんのワークショップのなかで目標として、企業へのアプローチということが出ていましたので、中小企業家同友会は三重県にもありますので、ひとつの糸口になるのではという感想をもって帰って来ました。

(司会者) 今、そのときの資料を回覧しましたので、見ていただけたらと思います。

3. 平成18年度の総括... 1年間をふり返っての感想など

- ・ 今年度どのようなふうになってきたのかということについて、私(井上さん)のほうで、資料を作ってきました。
- ・ 平成18年度のあゆみということで、第1回～第8回までの概略ではありますが、どのようなことをしたのかということをもとに箇条書きにまとめました。大体、流れとしては、第1回～第3回というのは、キックオフイベントが、9月に企画がされていたので、そこに向けての準備、みなさんのなかで今までもってきた認識であるとか、ニート問題というのをどのように捉えたらいいのかという学習の面で、それを深めていくということで、第4回目はふり返りを中心に研究会を行いました。
- ・ 第5回以降は、グループワークを中心にこの研究会でどのようなことをこれから行っていくのかを議論してきたというのが、今年度の大まかな流れではないかと思います。
- ・ みなさん、いろいろとお感じになったこと。お気づきになったことがたくさんあると思いますので、今日はこの会が終わってからアンケートというかたちで、記入する用紙を作りましたので、詳しい部分については、こちらのほうにご記入の上、出していただけたらと思いますが、ふり返ってどのような印象であったか。こんなことが良かった、または、このようなことをもっと深めていったらいいのではないかとか、意見交換をしながらみなさんのお話を伺えればと思います。

今年度の研究会をふり返って 参加者

- ・ 8回のなかには、おしごと広場のカウンセラーとしてスタートして、サポートステーシ

ョンができて、そちらに移ったのが、私のなかでは大きなことです。サポートステーションが必要だということで、自ら希望して移らしていただいて感じたことは、支援の対象が広がれば、いろいろな対象の人がまた掘り出されて来るというように、きりがいなというのが最近の感想です。

- すき間を埋めていく支援と、出口の問題。これは、ニート・社会的ひきこもり交流会に行ったときも、どの都道府県からも支援はたくさんあるけれども就職の場がないというのが出ていました。この部分は難しいことなのかもしれませんが、いろいろな働きかたを多様化するというので、なんとか切り抜けられないかと他の方も言っていましたし、私もそう思いますので、その辺りの工夫を頑張っていきたいと思います。
- この1年間というのは、サポート委員という立場だったのですが、非常に私個人としては居にくいポジションで、もともとこのような就労支援というのが専門でNPOの活動をしているものですから、サポート委員というところある意味主体者にならずに外からという立場なので、非常に個人的には苦しいというようなことではあったのですが、実際に中身において、随分とみなさんと事業のなかで関わらせていただいたので、このなかでの役割はすごく自分としては感じられたのかなと思います。
- 今年度でサポート委員というのは終了して、晴れて1NPOのメンバーとして来年度は参加していこうかなと思うので、その辺は気持ちを切り替えようかなと思っています。
- この1年間のなかで、このネットワークで私が感じていたのは、工藤さんも話されていましたが、例えば東京では絶対にありえない、幅広いいろいろなジャンルのなかから参加したネットワークなので、実際にネットワークを作っていくときというのは、各団体でいろいろな事業展開をしながら、支援活動していくというものに比べると、実質的には実感が少ない部分があるのではと思うのですが、こういったゆるやかなネットワークのなかで、月1回会うとある意味では事業をそのものではないけれど、事業そのものが、すごく有意義なものではないのかな、こういうものをずっと続けていくことが、大事だと思います。以上がこの1年間のふり返っての感想です。こんなに関わっているいろいろさせていただいたので、ありがたいなと思います。
- 僕は大学のなかにいるものですから、親身にみなさんとお話したり、接したりする機会がないので、大体、我々の常識は世間の非常識といわれるのですが、こういうところに来ると、特に三重大生はある意味では就職では恵まれているのかもしれない。そういう恵まれた学生を相手に就職を支援しているのと、このようなところで就職を支援しているのとは、全く質が違うのだなと、実感させていただきました。とにかく、大変である。2倍も3倍も労力がかかるということです。
- もうひとつは、みなさんが集まって話せる環境がある。これは、三重県の良さだと思います。僕は県民性というのをたまに言ったりするのですが、三重県の人には気さくに話し

あえて、あまり、対立しない印象があります。大体このように集まると大体セクト化していくのですね。そして、意見の相違から、分派して行って、いずれは研究会が3つ、4つ立ち上がっていくというのが、よく都会で起こるケースなのですが、三重県は非常に和やかに研究会が進んでいく、これは三重県としてもアピールできる場だと思います。先程の静岡の先生はおそらくひとりで頑張っていらっしゃる。組織をまとめあげようとするとしても、反発しあってしまったりする。三重県はこの和やかさを平成19年度以降将来的になんとかひとつのかたまりをそのまま維持して行って、三重県型のひとつの支援モデルみたいなようなものに結び付けられないかなと思っています。むしろ、こういった異業種の方が集まってやっていく、ひとつのシステムは大事にして、あとは、具体的な方向・中身を充実させていくかの課題になって来ると思うので、そういう意味ではきっかけづくりとして本当にいいスタートだったと思います。

- ・ 私は研究会へは途中からの参加だったのですが、一番おそらく長い時間ニートと呼ばれる人たちと時間を過ごしてきたと思います。本当にみなさんいろいろな悩みをもっておられまして、私個人が一番特徴的に感じたことは、非常に孤立されている方が多かったなと思います。実際に私たちのオフィスに集まって来られて、話をしているとみんな仲が、よくお互いに情報共有をしたりしながら、就職活動に向けてどのようなことをしたらいいのか、そのようなことをお互いに話合っていたのが一番印象的でした。
- ・ 3週間以内に12名くらいプログラムを終える人たちがいますが、そのあとが、個人的にはどうなるのかという気持ちがあります。
- ・ 今日は、産業支援室のセミナーへ行かせていただいて、CoCo 壱番屋の社長さんが来ていらして、彼の人生も結構おもしろいもので、ご自身が石川県出身だったことを15歳まで知らなかったということで、孤児ということでもかなり苦労されて、あそこまで、一代で築き上げたというお話しで非常に感動したのですが、CoCo 壱番屋の基本方針なのですが「経営を通じ人々に感動を与え続け、地域社会に必要とされる存在になること」を理念にやっておられるそうです。そのお話しに非常に感動しました。最近、CoCo 壱番屋さんは株式を公開しましたので、経営ばかり考えているのかなと思ったら、社会貢献に関心があるところなので、みなさんも時間の許される範囲で結構ですので、チェックしてください。あのような会社をもっと多くなればと思います。
- ・ 本当に初めは、よく言えば突出したところはなく、和やかな雰囲気ではあるものの、誰も答えをもっていない集まりで、ゴールも見えないし、何をやっていくのだらうという状態で集まったのですが、それが、結果として他の県にはないような、みんなが同じ立場で集まれる。誰かがひとり意見を主張して、それに同調できない人は去るというようなそのようなネットワークではなく、このように行なって来られたのは、何も資源がなかったからでもあるのですが、今はこの1年を通じて、いろいろな資源が見えてきて、

井上さんのほうで資料にも付けていただいています。いろいろな連携や協働が生まれてきて、これが広がれば特別な支援ではなく、様々に資源を活用して広がっていくのではないかという希望を今1年経ってもつことができるようになったと思っています。

- ・ この三重県の取り組みは厚生労働省や内閣府といったところからも、地域での取り組みということでは、大変注目をされていまして、福祉の自閉症・発達障害支援センターやこころの健康センターと雇用の部局が同じテーブルに座っている。つまり、行政の専門機関が同じテーブルに座っているということも、なかなか他県ではないようで、ましてやそこに教育委員会も入っているということも他の県ではないようなことで、私たちは当然のように、NPOの人たちとも、同じテーブルに座ってやっていますが、他の県ではそのような役回りをなかなかもてないということで、大変注目をされています。
- ・ 厚生労働省や内閣府から注目をされることによって、今回3月に来て頂けることになった津富先生もそこから情報を得て、こちらに話しに来ていただいて繋がった訳で、こちらでもまた津富先生から情報をいただけるということで、外部に情報を発信するということは、こちらにも、有益な情報が入ってくるということで大変良いことだと思いますが、先程から話が出ているように、出口の問題はあると思います。
- ・ そのためには、この前の全国の交流集会で感じたことは、私たちはこんなに正しいことをやっているのにまわりが理解してくれないという働きかけだけでは、まわりの理解は得られないので、ネットワークになってもこの研究会がやっていることが社会で認められるといいと思います。課題や現状やその取り組みに効果があるという、いろいろな社会の資源を持ち寄って、若者を支援するということが効果があることだということを社会に理解してもらえば、企業やいろいろなところが協力してくれることになると思いますので、全国に向けての情報発信ではなく、来年度は三重県の地域社会で理解を得られるような活動にもっていきたい。それが、ゴール(出口)を拓けるようなことに繋がることではないかなと思っていて、このネットワークはこれだけ多様な主体が集まっていますので大きな夢ですが、それだけの力をもっているのではないかなと期待しています。

(司会者)

- ・ 福島さんのほうでまとめていただいたのですが、事項書の裏に、この研究会を通じての協働・連携・協力というような具体的にどのようなことがあったのかということが、書き出されていますので、またご参考にしてください。
- ・ 若者就労支援研究会に参加させてもらっていたのですが、県庁での仕事もいろいろと担当していたものですから、現場での経験が不足気味です。参加していて思ったのは、参加機関同士の連携はかなりできてきているのかなと思います。
- ・ 就労支援について何をしていけばいいのか共通認識というのは、できつつあるのかなと思っています。
- ・ 実際に就労に結びついたという成果であるとか、出口であるところの就職先、企業など

の協力というのが、難しいという課題が浮き彫りになってきたように感じています。

- ・ 県議会では3月議会開会中ございまして、質問の内容については、働く女性や高齢者については質問が出ているのですが、若年者対策ということにつきましては、質問がなくある意味でもの足りないような、ほっとしている面もあるのですが、そういったことからニート・ひきこもり対策につきましては、一部のマスコミでは伝えられていますが、県会議員を含め社会・地域の問題として捉えられていない状況です。
- ・ 研究会で関係者のみなさまからご提案をいただきまして、横のネットワークはできつつありますが、就労に向けての外へ向けてのネットワーク構築が課題という認識をみなさんがもっていますので、なかの体制を固めて、平成19年度以降は外への連携をどのようにしていくかを、もう少し突っ込んだ検討をしていかなければならないと思っています。
- ・ 若者対策のひとつとして、県の新規事業で若者の早期離職問題、いわゆる「七五三問題」ということが言われていますので、若者の早期離職対策についての事業を「若者ワーキングサポート事業」というかたちで新しく始めますが、そのような若者の早期離職の原因の調査を見ると、まさにニートが抱えている問題と相通ずるところがありますので、それらと相連携してこちらのほうでも取り組んでいきたいと思っています。
- ・ 先程東京の中小企業家同友会の話も出ましたが、三重県の中小企業家同友会のなかでも、地域社会に愛されない企業は存在価値がないという企業団体の理念を掲げて、約県内500社の企業が会員企業となっていますので、一面少子化対策の関係で三重県の同友会も連携していますので、新年度はそのようなネットワークを活用した取り組みが少々できるのかなと思っていますが、まだ、働きかけはしていませんので、企業であるとか農業体験については県の普及委員さんの組織もありますので、そのような商工連合会など個々の取り組みから、組織を窓口としたかたちの取り組みの検討を進めていきたいなと思っていますので、引き続きご協力をよろしくお願いしたいと思います。
- ・ 今年この研究会に参加させていただきまして、私もこの4月からおしごと広場で勤めさせていただいたのですが、今まで翌々考えていますと、おしごと広場は2年前からできているのですが、それまで、無業状態の方がいらっしゃったら仕事を探すとなるとどうするかというとハローワークに行く。自分で、情報誌などで探すという選択肢しかなかったのかなと思います。実際にハローワークで求職者の方が多い時期ですと、相談といいましてもなかなかばたばたしたようなかたちでしていたのが、カウンセリングをはじめとする相談ができる場ができてきて、この支援研究会のみなさまが取り組んでいただいている部分ではございますが、まず就労という部分でいろいろと体験をしていくという、雇用という部分にいきなり行くところではない部分であるかと思いますが、その前段階での支援というのが、徐々に広まってきたという感想もっています。

- ・ 従来ですと、雇用というのは、そのような求人を集めてそれを紹介するというハローワークで行なっている部分と、その他のこころの悩みであるとか、ひきこもりの方への相談という連携が深まってきているのではないかと思ひまして、参加させていただいて、いろいろな支援をしているお話を聴かせていただいて、大変勉強になっているかなと思ひます。まだまだ、勉強不足の部分もありますので、引き続きよろしくお願ひします。
- ・ 私が所属しているのは、社会福祉協議会なのですが、研究会に就労がついているものだから、参加当初から社会福祉協議会をしてはどのような立場で関わっていくのかなというのが、ずっとクエスチョンがあつて、今でも疑問符がとれていないのですが、私の頭のなかでは社会参加というふうに置き換えて参加をさせてもらっているところですよ。
- ・ 社協は専門機関のみなさんと違つて、なかなか当事者の方に常に接する訳ではない組織だと思ひのですが、たまにボランティアしたいということで精神障害をもたれている方がみえたりするようなのですよ、そのときに担当者はどのようにしたらいいのかわからないという担当者がほとんどですよ。そういうところにこのような研究会やサポートステーションがあるということをお県社協のほうから各県内社協のほうに発信をしていかなければいけないなと思ひています。
- ・ この研究会に各担当者が参加しているのよ、和やかにいっているところはあるのかなと思ひのですが、やはり担当者だけではなんともできないと思ひるので、担当者から各組織への認識を変えていかなければいけないのかなと思ひています。
- ・ 私も途中から参加させていただいたのですが、参加させていただいたときが工藤啓さんのお話だったので、工藤さんのお話を以前に他で聴いたことがあつておもしろいなと思ひていたのよ、話を聴きたいなということで参加させてもらったのですが、その後も皆勤で参加させてもらっています。
- ・ 参加させてもらつて、私はおしごと広場で直接就職に結びつくところなのよ、みなさんとは立場的に、ちょっと違ふのかなという気もしながら、でも話し合われる内容であるとか、そのようなものはとてもワクワクしながら聴かせてもらいました。
- ・ もともと私もカウンセラーではなく、以前は企画運営の仕事をしていたのですが、そういう血が騒ぐというか、この研究会で出る企画案がおもしろそうだな、やりたいなやりたいなという気持ちで楽しく参加させていただいております。
- ・ ただ、私が楽しんでるだけではいけないのよ、きちんと何かできることはないのかなと考えているのですが、私はここのメンバーがひとつになつて何か取り組みをする、ひとつのモデルプランを考えてそれに乗っかってもらうというのは、語弊があるかもしれませんが、そのようについこの間まで勝手に考えていて、でも、そうではないんですよ。全員でひとつを行なうのではなくて、誰かと誰かが結びつくというそういう入口のところ間違っていたということに気づきました。

- ・ そう考えたときにおしごと広場からは、実際には最近、佐々木さんに随分とお世話になっていて、私のところに来た人たちを紹介して体験させてもらっているのですが、それもひとつ大事かなと思うのですが、翌々考えるとみなさん出口の問題が一番大事だと言っているのに出口が私たちなのに、ちょっとそういう意識が薄かったかなと思いますので、私ひとりでは何もできませんが、おしごと広場も出口のところのお仕事がしっかり果たせるようにできたらいいなと思っています。
- ・ 私は4月からこの仕事に就いて、本当に手さぐり状態であつという間だったのですが、ふり返って思うのは顔のみえる繋がりってすごく大事だなということです。
- ・ うちのセンターで実際にひきこもりの相談ですとか、家族教室や当事者会とか細々ですがさせていっていて、そのなかでご家族からの相談があったときに、内容を聞いたうえでいろいろな機関を紹介させていただいています。やはりおしごと広場みえ、サポートステーション・みえや就労体験にこのようなものがあるよと紹介させていただくときに、担当の方の顔を思い浮かべながら、安心して私のほうも紹介できるので、この研究会に出させていただいて本当に良かったと思いますし、ご家族の方からも情報があったらほしいということですので、引き続き研究会参加させていただけたらなと思いますし、専門性を活かしてもう少し提供できるものがあつたらなと反省も含めてふり返っております。
- ・ サポートステーションをいうのが、地域若者サポートステーション事業とあって、実際就労というのがあたまについていなかったのですが、サポートステーションの役割として、各地域へ就労支援のネットワークをつくれというのが役割としてあるのですが、三重県の場合はこの研究会があつたので、そのようなことを全くやらなくてもいいので、とても助かっています。
- ・ 他県の方の話を聴いても「行政の担当が全然手伝ってくれない」という方もいらっしかったりと、市民活動センターにもっとネットワーク参加してもらいたいとか、そういった意見がすごくあって、本当に三重県では独自性のあるものだと思いますが、いいかたちでネットワークができているなという感じがします。
- ・ 1年をふり返って、私は最初の森下さんのときからずっとという感じですが、いまも昔も変わらないのですが、私の活動は市民活動センターさんに近いのですが、民設民営で、なおかつ場所が鈴鹿市ということなので、だいぶと仕事内容も違います。いろいろな団体さんの事務代行などを抱えているのですが、そちらの仕事が主体なのだろうと借り出されることが多いので、普段何をしているのかというのが、本当によく分からない立場なので、何か言ってくだされば、代表と2人で考えて検討しますが、でもその点で弱いところが、私も代表も考えがびったりと思いつきます。だから、お互いに違う発想を次

から次へ、自分の中に取り込んでいかないと、職員が2人しかいないなかで2人とも考えることが一緒では組織が傾いていきますから、参加をさせていただいて、何でも言うていただければ動くだけのものもあるのですが、人手が足りないということと、やはり組織としての弱さというのか、また、私も努力して補っていかねばなりませんし、ほとんど個人のような感じで参加させていただきました。

- ・ 私もこの研究会に最初から関わっていて、なかなかかたちになってこない。研究会がゆるやかなので、もっとかたちになって進んでいかないのかなという部分があって、そのようにドカンドカンとっていいのかなというのではなくて、段々どのようなふうやっていくのかなとその点に関しては、代表と私との考えかたは一緒なので、この研究会に関して、なぜ、そんなにまどろっこしいのだということ、しょっちゅう言われて、何をしにキミは研究会に行っているんだと怒られて、一步冷静に引いて考えたら、着実に進んで行っているのですよということを事細かに説明して、私が研究会に出て来るしばらくの間は黙ってかかっているような時期が続いて、最近では段々とかたちがみえてきたので、代表も行ってらっしゃいという感じでにこやかに送り出してくれるのですが、そういった点の難しさはありましたね。
- ・ 次年度になってまた具体的に足場がちゃんと組み立てられるのかなということを期待している状態です。
- ・ ちょっとふり返ってみて、ひとつキーワードのように思ったのが、信頼感、信頼関係ということをも自分自身ではちょっと考えているのですが、こういったネットワーク自体がお互いのリソースや専門性のある方ですと、各人の専門性だとか、そういったものを理解し合う場であって、そういったものでお互いに信頼感をもてたのではないかなと思います。
- ・ 先ほど中小企業家同友会のお話がありましたが、やはり信頼関係のあるところから紹介されるとニートの若者であっても、紹介を受けたなら受け入れるといったことがあるようなのですが、やはり信頼関係を繋ぐなかで、いろいろな解決策が出てくるのかなというふうにも思いました。
- ・ NPO 室なのですが、協働事業というのを大きなテーマで行なっていますが、NPO と行政の信頼関係がないと事業ができないということがありまして、ちょっと信頼関係を作っていくような仕事をしている気がしました。
- ・ 自閉症・発達障害支援センターという立場で、最初から参加させていただいていますが、私は若者の無就業状態にある一部分の人たちとお付き合いをさせてもらっていますが、当初仕事のほうからいいますと、私は県の機関で一定の障害者という枠の人たちの就労というかたちで関わっています。
- ・ 今まででは健康福祉部(障害者、子どもの問題を扱う県の機関)というのがあるのですが、

就労支援を平成 15 年からさせていただいていました。そしてちょうど、生活部の勤労・雇用支援室の活動を耳にして、いろいろな情報を得たりしました。この研究会に任意にずっと参加させていただいて、今までの就労のノウハウとは違うものが得られるわけです。これだと思って、平成 18 年度うちは行政のほうにアピールしました。これは私の仕事と思えるというふうに言いまして、今この研究会は絶大なる認知度を得まして、ここに参加させていただいていて、うちの仕事としての役割を担う部分がここで見つけれられてきているのかなと思います。

- ・ ただ、一番そのような部分を対象として支援させていただいていますので、当事者の方々との接点。これをクリアしながらでは、うちの仕事はもっと開いてこないということで、いろいろなご意見をいただきつつという思いで続けています。
- ・ 随分とこの研究会から広げるのは難しいですが、いろいろな相談窓口を開けていただいていると、そこにはいろんなレベルの方が相談に行き、就労の支援を求めてみえるので、その一部分を担わせていただくという意味では少し全国的には珍しいけれども、意味ある活動かなと思っています。
- ・ この研究会からご紹介いただいた支援者については何年かかろうとも全部成功させようねというのが私たちの夢です。
- ・ そういう部分の仕事をしていることが、この研究会に出させていただいていることで、自分の域みたいなものがみえるので、これは随分とこういうネットワークのなかにいるということが大事なことかなといつも事務局長と 2 人で言って参加させていただいています。
- ・ 研究会に関しては、私個人のことになりますが、主に議事録、セミナー起こしなどをさせていただきました。みなさんに目を通していただいて、恥ずかしくないものを作成しようと、絶えず改善に努めてきました。まだまだ私自身がいたらない部分はありますが、研究会の事務作業を通して、スキルアップをさせていただきました。ありがとうございました。
- ・ 私も 11 月からの参加で、右も左も分からない状態で、今何で私がここにいるのだろうという感じはしているのですが、配っていただいた「研究会を通じた協働・協力の具体的事例」のなかにひきこもり当事者会ボランティアとサポステみえとの連携ということを書いていただきまして「あっ、私、研究会に来ていて役に立っているじゃない」と一瞬嬉しくなりました。
- ・ こころの医療センター当事者会のボランティアをしています。それとは少し離れて月 1 第 4 火曜日から、ミーティングルーム A を予約しまして、当事者の方に集まって来てもらおうとボランティア仲間と企画をしまして、今日が初日だったのですが、どこまで続けられるか分かりませんが、そういった連携を通じて、ニートの方の就職の出口があ

るならば、私たちは入口の部分で困っている当事者の方たちが来ていただけるような窓口をつくっていくのも、ひとつの仕事ではないかと思いました。

- ・ みなさんも当事者の方で困っていらっしゃる方がいましたら、こういった場所もあるよとひと言声をかけていただいて、社会を開いていけるお手伝いをお互いに行っていきたいと思いました。よろしくお願いします。
- ・ みなさまいろいろなご立場でここへご主席されていますが、私は、個人で出席していません。私としては、最初からここに出席させていただいたおかげで、いろいろな情報を得ました。
- ・ このように一歩でも二歩でも研究会に出てくることによって、会合を開いていただくだけでも、自分たちの意識や啓蒙の部分に繋がっていくのかなとも感じています。ひとりふたりと新しい参加者がいらっしゃるのも成果だと思います。
- ・ そういった意味では、ここでいろいろな分野から集まってくださっている方々はすぐに成果は出てこないかもしれないけれども、長い目で、一緒に考えてくれる姿勢でいらしてくださいとのことなので、こころ強い思いがしています。
- ・ 少しずつでも間口を拓けていっていただけるといいと思います。就職していない本人であるとか、就職していない子をもっている親というのは外に出られなかったわけですよ。でも、そうやって出てきていいんですよ、一緒に何かやりましょうという人や機会があればあるほどみんな出て来てくれるのかなと思います。それで、なぜ出ていけないのかというと、やはり、どうしていいのかわからない、何をしたらいいのかわからない、その辺から始まっているので、こうやって支援して下さる方々も何から始めていいのかわからないという部分もずっとついていくのかなという気持ちもしますが、私自身も何か出来ればなと思います。
- ・ 私の職業は精神障害者の小規模作業所の職員なのですが、最近、若い方たちの入所が増えています。やはり、そういった方たちの希望は生活のリズムを整えたり、その後、就職がしたいということなのですね。精神障害者向けのハローワークの窓口もありますし、それから職業センターもありますが、子どもたちをこういったニートのところに結びつけていいのかなと思います。そういうところは違うのかなとかいつも考えているところで、今は何も言えない状況なのですが、私がみていて、特に精神障害者だからといって、気分的なムラはあるかもしれませんが、あまりかわりはないのではないかなと思うのです。そういった方たちをご紹介するのが、ご迷惑になってもと思いますが、このようなニートの支援体制のなかでサポートしていただければ、もっともっと就職できる障害者の方がみえるのではないかと今思っているところで、その辺がうまく繋がっていけば、私としては嬉しいなと思います。しかし、具体的にどうしていいのかわからないので大変申し訳ないのですが、これからもこの研究会をよろしくお願いしたいと思います。

- ・ ガイドブック作のお手伝いするところから、研究会に途中から参加させていただいたのですが、学生として参加していますが、このようにいろいろな立場の県の方であるとか、NPOの方であるとか、いろいろな立場で参加されている方がたくさんいるなかで、また、その考えかたや価値観もまた違ってくるなかで、研究会の課題が絞られていくなかで関わらせていただいて、その過程を目の当たりにできて大学のなかでは得られない経験でしたので、とても勉強になりました。
- ・ あと1年学生として何かできることを探しながら、やっていきたいなと思います。

(司会者)

- ・ はい、みなさんどうもありがとうございました。私自身ふり返ってみて、この研究会が始まった、1回目(7月)~4回目(9月)のあたりは体調が非常に悪くてこの研究会に参加することができなかつたときもありますし、非常に辛い状態だったのですが、4回まで司会をしていた太田君から引き継いで、進行模索しながら、最初本当にどうしたらいいのか私自身全然見えなかつたのですが、段々とかたちになって行く様子がみえてよかつたなというふうに思っています。
- ・ 資料のあゆみの記したプリントの裏側をちょっと開けていただけますか、目標ネットワークを構築するという四角で囲ったタイトルのプリントなのですが、そちらのほうに私がこの8回の研究会を通じてみえてきたことを私なりに総括をしてみました。
- 1. そもそもこの研究会がスタートするとき目標として掲げたことは、ネットワークを構築するということがあげられていたと思います。では、ネットワークを構築するのは具体的にどのようなことだったのか。「共通認識を形成していく」。それは「協働のインキュベート」という、この場がきっかけになって、様々な連携、協力、協働というものがうまれていくように種まきをしようという場であったと思います。そのために必要なことはそれぞれがもっている情報、資源を持ち寄って共有していくことが必要になるであろう。例えば、今年度の事業としてはガイドマップを作ろうというところがあったと思います。
- ・ もっている資源だけではなくて、それぞれがもっている課題。自分たちの組織で解決できないような困ったことを持ち寄って、それをまた共有していくこと。そのためにインターネットのメーリングリストのような場があるし、また第5回~第7回まで体験していただいた、ワークショップのようなかたちが問えるかなと。そのなかで、解決策を探っていくということです。
- ・ そうした、ガイドマップやメーリングリストといったいわゆる支援ツールをどのように活用していくのかという検討も必要だということが見えてきたと思います。
- ・ 既存のツールで上手くいかない場合は新しいツールをつくっていくことも必要になるのではないかなと思います。
- ・ そのうえで、事業を誰が行なうのか。責任主体を明確にした議論というものが必要では

ないかと思えます。

- ・ 課題を整理した A3 の紙がありますが、これは第 5、6、7 回の議論をふり返って、整理をしたわけなのですが、結局、ここに書かれたことを具体的に実行していくということになると、当然、経営資源というか、人、もの、金、情報というリソースをどのように確保していくかというのが、課題となって出てくるわけで、そうするとそのコストをどのように分担していくのか。誰がどのような役割を果たすのかという話に繋がっていくと思えます。
- 2 . 工藤啓さんが語られている「包括的、個別的、継続的支援」というのが重要なキーワードだと私自身認識していきまして、これを研究会の在りかたに読みかえてみました。
- ・ 包括的な支援というのは、たぶん、県全域レベルで、この問題自体の全体を見渡すというような場所がやはり必要であろうと思えます。まさしく研究会自体の場がそうであったのかなど。ただ、それだけではやはり、3 番に詳しく書きましたが、限界があって、個別的な支援を考えていかなければいけない。それは、特に三重県というのは南北に長いという地形的な問題もありますが、地域別現場レベルの話は、その地域ごとに実践していく必要があるだろう。また、それぞれのいろいろな課題のテーマ別に専門性を掘り下げてアプローチしていくような方向も必要であろうと。
 - ・ 継続的支援については、協働という言葉が浮かびました。協働というものがどのようなものであるか、現時点でははっきりとした定義はないのですが、少なくとも自分たちの団体や窓口だけでやっていることで限界がある。例えば、前の行ですと、特に経営資源の問題で、お金がない、人がいないというような課題を常に抱えているわけですが、そうした課題を企業などから支援していただきながら、運営していくというのもひとつの協働のかたちではないかなと思えます。
- 継続的に行なっていく、ひとつのツールとして、協働があるのかなと。
- 3 . 「研究会（ネットワーク）でできることには、やはり限界がある」ということも見えてきたと思えます。先ほどの発言のなかでも、研究会というものが、最初思っていたものと違っていったというお話も伺ったのですが、捉えかた、考えかたというのはそれぞれにいろいろあったと思うのですね。
- ・ ひとつにはネットワークはきちとした組織ではありません。ゆるやかな繋がり、出入り自由で誰でも受け入れるような感覚で私自身は捉えていたのですが、そういう繋がりの中、じゃあ、何ができるのかということ考えたときに、やはり限界はあるであろうと。
- (1) この問題に対しての課題というのは本当に山積みなのです。様々な課題がたくさんあります。では、この課題をこの研究会で全部解決できるかというところと不可能です。当然、そのなかから優先順位を決めて選んでいかないとはいけません。
- (2) この研究会のなかだけで解決しようとするのではなくて、他の主体に投げかけて提案していくという動きも必要であろう。

(3) また、このネットワークのメンバーを増やしていくという方法も必要であろう。

- ・ この研究会として、ほぼ、月に1回行っていた研究会に参加するということが、この研究会の役割ではなくて、みなさんが日々生活のなか、お仕事のなかで果たせるような役割みたいなものをもってもらう。また、その役割を分担していくということも必要であろうというようなことが、この8回の研究会をふり返って、私なりに見えてきたことです。
- ・ 課題はこのシートに細かく、一応仮おきなのですが、整理をしてみました。

<重要課題として>

1. 当事者へのアウトリーチ
2. 社会へ向けてのケース。特に先ほど、出口というお話がありましたが、企業に向けてのアプローチが大事だということがみえてきたと思います。
3. 個別の支援策を検討していくという方向もやはり大事で、例えば、居場所づくりであったり、それぞれのケーススタディというような部分も必要かと思えます。
4. このような動きに関わっていくサポーター、支援者の育成、ネットワーク化も大事なわけです。
5. こういう問題が起こらないようにするための予防策ということがあるのかなということで5つに整理をしてみました。

協働ということについて、私に関わった事例として四日市の取り組みを書かせていただいたのですが、四日市情報外語専門学校という、いわゆる、私立の専修学校が事業主体になって、文部科学省から委託事業。専修学校におけるNPO等と連携したニートに対する職業教育支援事業というものが、平成18年度初めて実施されました。この事業は全国で8箇所実施をされたそうです。

- ・ この事業の実施にあたって、連絡協議会というものをつくって、四日市市役所の商工課や商工会議所の方、それから県の濱條さんと私というふうに。そのなかでこの事業をどういうふうにしていくのかということ話し合いながら、やってきました。
- ・ パソコンやビジネスマナーの学習については専門学校。広報は市役所。職場見学実施については商工会議所。自立支援に関わることは、主にNPOというような感じで、それぞれが得意な分野を担当しながら行なっていくというような取り組みです。
- ・ このなかで、例えば、出口の問題というのは当然関わってきますが、ハローワークにこの事業に対する協力を求めましたが、文部省の事業だから、うちの管轄ではないのでということをお願いしました。しかし、幸いにも四日市のハローワークの所長さんが、自ら受講生に対してのハローワークの説明。今の就労に対しての説明を2時間していただけたというようなことがあって、やはり連携、協働といいますが、異なる主体が一緒に取り組んでいくということが、やはり大事だなということを痛感したようなことがありました。

次年度の事業について 福島

- ・ 勤労・雇用支援室の事業としては、新年度も今年度と同様の事業予算を確保することができていまして、まずひとつは、これまでこの協働事業は、NPO との協働ということで、NPO 室の予算で運営をしてきましたが、それを勤労・雇用支援室のほうで予算をとって、ネットワークの運営を行なっていきたいと思っています。
- ・ 今年度実施したようなキックオフイベントと同じような当事者や家族へ向けてのアプローチということで講演会、親向けセミナーを3回予定しています。あとは、就労体験事業を今年度と同じ枠で24人分ということで、予算を確保しています。
- ・ それを、どのようなかたちで、どのような主体と連携をして、協働して行なっていくということは、せっかくこの研究会がネットワークとして発足しますので、できれば協働ということで来年度も事業を進めていきたいと思います。ネットワークとは全く別に事業を行なっていくのではなくて、このネットワークを活かしながら、来年度の事業も行なっていきたいと考えています。

(司会者)

- ・ 今日の研究会で、平成18年度は終わりますが、平成19年度に向けて、この研究会をどのように運営していったらいいのか、みなさんと意見交換できればと思いますが、事項書の(2)研究会としての年間目標(3)運営方法(4)研究会の規約についてと項目を分けて書かせていただきましたが、これは全部関わりがありますので、そのなかで研究会の規約が一番運営のベースになってくると思いますので、規約については前回出させていただいた案に加えて、メーリングリストのほうで、いろいろとご意見をいただいて、そのようなことを基に今日は作ってきましたが、濱條さんのほうから改正案を出していただいたので、どのような点に変更されたかということをお話しいただけますか。

みえ若者就労支援ネットワーク(仮称)規約(案)について 濱條

- ・ 基本的な枠組みは、当初の案と変わっていませんが、全体の仕組みとしては、一般の団体の総会というものに値すると思いますが、最高の意思決定機関は、この研究会のみなさんの議決と、その他に広域法人の理事会と類似するようなイメージで運営委員会。また、特定の事項を調査・研究するための専門部会というような3部構成で、その間の整合性を取るための規約の整理ということがメインで、大筋では変えてございません。
- ・ 第3条につきましては、メーリングリストで指摘がありましたように、営利・政治目的で入られると混乱を招きますので、基本的には運営委員会で参加者の資格の審査ですね。ゆるやかなネットワークですので、要するに基本的には政治・宗教目的以外の自発的参加であれば、構わないと思いますが、細部につきましては、運営委員会で基準を決めると。それが、いつでもみなさんが閲覧できるように、会員名簿を常に事務局に置いて確認できたらいいのではということで第3条を変更させていただきました。

- ・ 退会につきましても、これは個人の自発的な位置ですので、任意という言葉をつけ加えて整理をしました。
- ・ 取組については、第 5 項、第 6 項の主に事業の年度計画、収支決算、予算が付けばの話ですが、事業計画、収支決算の承認。ネットワークの役員の任免ということ新たに加えました。
- ・ 第 6 条 役員と任務 正副代表を置いて、副代表が代表に事故があるときは、職務を代理するというかたちで整理をして、副代表は 2 名がいいのか 3 名がいいのかいろいろご意見があると思いますが、基本的に代表 1 名に対して、副代表 2 名があれば、いろいろな場合でも対応できるのではないかというかたちで本項の整理をさせていただきました。
- ・ 第 7 条以降は、役員の任期と解任するときの基準
- ・ 第 8 条につきましては、ネットワークが最高の意思決定機関であるということを明記しました。
- ・ 第 9 条 運営委員会については、基本的に変わりはありませんが、業務については明記をしたということです。
- ・ 第 10 条 専門部会の規定です。
- ・ その他については、第 14 条については事業年度の規定がないようでしたので、基本的には 4 月から 3 月の事業年度の明記をして、事業計画案、事業報告案、収支決算書の承認というかたちで、このネットワークで承認していただくように、事務局で作業していただくということです。
- ・ 第 15 条以下については、財源です。今後もし必要であれば、個人の方から会費ということも考えられますが、当面は県等の委託費や寄付金、補助金等を原資にするということで書きました。
- ・ 規約案について基本的には、大きな変更はありませんが、一応組織として、ネットワーク会議と運営委員会、専門部会の 3 つの関係整理を主にして、改正案を作成しました。

(司会者)

- ・ はい、ありがとうございます。この規約の重要なところとしては、目的にあたる第 2 条と取組の第 5 条の内容の部分だと思います。それと具体的にどのように運用していくかということについては、前回のグループワークのなかで、みなさんからいろいろご意見をいただいていたので、それを集約したようなかたちで、それらを反映しようということでも文面が整えられていると思いますので、特にこれは少し不味いのではないかという箇所があれば、あとでご指摘いただければと思いますが、次年度の第 1 回の研究会はこれを承認していただくというのが、一番最初の仕事になるのかなと思いますが、先ほどの総括のところでも申し上げましたが、この研究会の場だけで全部やろうとするのではなくて、いろいろなテーマ。例えば、社会に向けての啓発や予防策を考えると、企業に向けての働きかけ、個別の支援策を考えるような、それぞれの専門部会みたいなものに、みなさん方にどれかに属していただいて、この研究会の動きとテーマごとの動きが平行

して動いていくというような感じで、次年度はできないかなと考えます。それで、このネットワークは出入り自由ですので、ある程度コアになった固定メンバーという部分で、運営委員会の存在があるというような感じで、やっていければと思うのですが、いかがでしょうか。ご意見などいただければ。

- ・ こうやって、この規約を読ませていただくと、三重県のなかで開けた研究会であるということなので、県のほうでもこういうところに事業をおろして、このネットワークの外でもいいと思うのですが、この会が積極的に NPO の協働事業として展開していくという形はとれないものでしょうか。今年度はこの研究会のコーディネートやアウトリーチ事業を寺子屋プロジェクトさんが、就労体験事業を佐々木さんの地域開発研究機構さんが請け負うというように、県が別々に委託するという形だったわけですが、もちろん事務局の窓口をどうするかといった検討はしなければいけません。この研究会として積極的に三重県の若者の就労対策をしていくということで、手をあげていくのも大事なことでないのかなと思います。お金をもつということが、責任をもつということでもありますし、そういう意味で、研究会として積極的に手をあげていくという意思を示していったほうがいいのではないかと思います。

(司会者) はい、ありがとうございます。

- ・ ひとつよろしいでしょうか。例えば、部署によっては異動があるわけです。決済をもらわないと研究会に参加できなくなる可能性もあります。私が今の部署から、もし移動になったなら、私個人としては、違う所の職場からでも出てくることになるのかなとそういうイメージがあります。
- ・ 今年の事業報告のなかに、連携が必要だから、研究会に参加し成果がありましたというように今年も書けました。それは言えるようになったのですが、来年度 4 月からこの研究会に参加するにあたって、組織によっては、多分決済をまわすと思うのです。組織全体で議論すると思うのですが、そんなものなのかなと思うのですが...
- ・ 私たちは任意で出てきて、その出てきた結果を仕事と繋げるのだけれども、多分担当が変わったら、今の会に参加する姿勢が反対になるかもしれません。そこだけ、少し苦慮しています。

(司会者) 難しい問題ですね。異動するというのは、行政の宿命というか。

- ・ うちの部署も同様で、最初この研究会に来るときに、文書や電話での説明もありということで、ようやく出てきているところですが、ただ今年度、私が研究会に出ていたという実績があれば、担当が変わったとしても、それは、いかに直接説明するかということにかかってくるのかなと思います。
- ・ たとえ仕事として、研究会に出てきたとしても人数が増えていいのかなとも思います。

(司会者)ある意味、それはネットワークの拡充という意味でもいいのかなと思います。

- ・ はい、ありがとうございます。他いかがでしょう。

規約の第 2 条の目的のところの「このネットワークは、三重県を担う若者が自己の意欲、能力に応じて経済的かつ社会的に自立し、自己実現ができるように、家庭、学校、地域、企業、行政等の多様な主体が連携し、地域全体で包括的に支援する仕組みづくりを目的とする。」という部分にひっかかることはないですね。

- ・ 個人の資格でも参加できるし、行政の担当としても参加できるし、その目的については、高い公共性があったら申請すれば、否決する上司は多分いないと思いますので、自信をもってあげていただいてもいいと思いますが、第 2 条に関しては、まち全体で、多様な対応が行なえればと思いますので、経営資源をもった方が、個人の資格でも行政の資格でも、その他でも持ち寄って県内、地域全体で包括的に支援する仕組みをつくってほしい。以前に知事レクというのがありまして、若者の自立支援に対しても、NPO 等との関係機関でやってもらっているよねというお話をこちらが説明しないのにですね、そういうことを知って見えたので、行政が行政の勝手な思い込みでやっているのではなくて、いろいろな関係機関の方に集まっていたいて、いろんな意見を聴きながら支援をしていくという認識はしてもらっているので、多分、組織で何かあれば、知事のときのように言ってもらっても、別に構わないと思いますが…。
- ・ 個人なら個人の資格でもよろしいですし、その辺は規約上からも自由ですね。この研究会には、多様な方がいろいろな方面から是非とも参加していただきたいと思います。

(司会者)

- ・ この規約については、今日ご参加頂いた皆さんには概ね合意をしていただけたということで、よろしいでしょうか。
- ・ あと、次年度の具体的な取り組みについては、前回グループワーク 3 班に分けて議論していただいて、大体の流れみたいな大まかな部分というのは出てきていると思うのです
- ・ それと A3 の紙の大きなところですね。結局、みえ若者就労支援ネットワークとして取り組む課題の一番左の一番上の部分になかなか納まりきれないような感じで書いてありますが、結局このなかで具体的に何ができるかというのは、あとはリソース(経営資源)の問題なのです。それと、できないところをどのようなふう、例えば、地域、県内の市町単位に提案をし、振り分けていくというような動きを起こしていくことによって可能になってくるかなと思います。あくまで、この位置的なものは仮置きというような感じで、決してこのようにやっていくというようなことではないですから。ただ、全体にどんなふうな課題があって、というようなことを先ほど俯瞰という言葉を使いましたが、全体を見渡せるというのは非常に大事なことだと思いましたので、このように仮に整理をさせていただきました。
- ・ 最初申し上げましたように、アンケートの紙を用意させていただきました。このなかで、

ご発言しにくかったことや、次年度に向けてみなさんがたがどのような役割で、どのようなテーマでこの研究会にご参加いただけるかという方向みたいなものを書き入れていただけますような項目もありますので、記入していただいて、今日は終わりということにしたいと思います。ありがとうございました。